水　　産　　業

四方臨海の地形と，海を恐れぬ漁夫の活躍で，我が国の水産業は世界一の誇を持つていたが，戦後，太平洋の漁場は核兵器実験で締め出され，北洋にはソ連の漁獲制限があり，朝鮮寄り日本海では李ラインに脅かされる等，日本の漁業に利がない。しかしながら，このような悪条件を越えて伝統的産業は育成され，現在も世界有数の水産国として，多くの漁獲を得ている。

本県は太平洋に突出した半島で，周囲の海岸線は363粁に及び，南東岸沖には暖流が流れて，多くの漁族が回游する自然要因に恵まれているため，昔から全国屈指の水産県として知られている。

漁業の経営体は15 356あるが，個人経営が97%を占め，漁業種類別では浅海養殖が57%，釣及び延縄漁業が98%となつている。また所有漁船の95%が5屯未満で，50屯以上は64隻，内100屯以上は12隻に過ぎず，本県の漁業は沿岸漁業にのみ頼つている，小規模漁業で殆んどを占め，遠洋漁業が立ちおくれている。これは，自然現象によつて豊漁，不漁の差が激しく生じ，経営の安定度が低い水産事業へ，大きな資本を投ずる者がなかつたことであるが，今後は，機械設備の完備された大型漁船によつて，沖合或いは許された海面への遠洋漁業に進展しなければならない。

即ち本県の漁獲高をみると，昭和10年に6 960万貫あつた漁類漁獲高は，戦後甚しく減少した。それが近年再び増加し，昭和30年には概ね戦前の水準まで回復したものの，当時と較べて漁船は動力化，大型化しているから，一漁船当り実質漁獲高は決して戦前並とは云えない。また，沿岸漁業の花形であるイワシは，戦前漁類漁獲高の90%を占めていたが，近年は30%前後に過ぎず，沖合漁業のサバ，アジ，サンマの漁獲が多くなつてきている。

消費面の制限がなく，むしろ水産加工業の発展によつて，需要の増大する水産資源の獲得に，本県漁業も新しい漁場へ進出しなければならない。